

## 欧米で流行しているG /4変異型ノロウイルスの国内での検出状況

愛木智香子, 秋山美穂, 西尾 治, 杉枝正明, 山下育孝, 福田伸治, 吉澄志磨, 西田知子, 田中俊光, 岩切 章,  
田村 勉

病原微生物検出情報, 26(12), 325 ~ 327(2005)

ノロウイルス(NoV)G /4変異型の2002型と2004型は, ORF2のカプシド領域がLordsdale型で, ORF1のポリメラーゼ領域に変異が認められる株である. 2001年2月~05年3月に発生した小児下痢症, 食中毒, 感染性胃腸炎集団発生のうち, カプシド領域がLordsdale型であった患者ふん便および吐物111件について, ポリメラーゼ領域の遺伝子解析を実施し, 変異型の存在について調査した.

2002年以前に流行した99/00型, 2002型, 2004型, SaitamaU1型の4つの変異型が検出された. 2002型は2002

年12月から, その後2005年2月まで検出された. 2004型は, 2004年1月から始まり, 2004年12月から2月に最も多く検出された. 2004型とSaitamaU1型は高齢者施設集団発生事件で高率に検出され, 散発事例に比べ集団発生事件での原因株となる傾向があった.

今後も新たな変異株が出現する可能性が考えられ, 海外でのNoVの発生状況についての情報収集と併せ, 検出されたウイルスの遺伝子型解析を実施していくことが重要と考える.

## A/H3型及びB型インフルエンザ混合感染事例からのウイルス分離

戸田昌一, 岡本玲子, 西田知子, 中尾利器, 吉川正俊, 宮村恵宣, 鈴木英太郎

病原微生物検出情報, 26(11), 297 ~ 298(2005)

県内の医療機関において, インフルエンザ迅速診断キットにより A型及びB型の両方に陽性と判定された2名の患者から採取された咽頭拭い液検体について, MDCK細胞培養法によりウイルス分離を試み, ウイルス初代分離液中にA/H3型とB型の2種類のウイルスが混在していることを示した. また, そのうちの1検体については, プラーク

クローニング法により, A/H3型とB型の2種類のウイルス株を分離同定した.

従来, インフルエンザウイルスの2種類の型(亜型)の混合感染は稀な事例とされてきたが, 同時期に複数の型が流行の主流となった場合, 異なる型の混合感染事例が少なからず有り得ることが示唆された.